

増 月

修禅寺・寺報
Shigetsu

発行所：福地山 修禅寺 〒410-2416 伊豆市修善寺964 電話(0558)72-0053 FAX(0558)72-9680

平成28年

第59号

1月1日

◇特集

奥の院護摩堂 落慶法要

平成27年12月22日
完成式典が営まれました

奥の院護摩堂、完成

かつて奥之院にありました護摩堂。集中豪雨の被害によって倒壊して以来約半世紀、多くの善男善女のみなさまの御寄進によって、再建の運びとなりました。

今年3月23日の着工後、順調に工事が進み、このほど、12月22日、星まつりに合わせ落慶法要（完成式典）が営まれました。当日は多くの関係者が参列され、見事に復活した護摩堂の完成を喜んでおられました。



奥之院護摩堂 完成に寄せて

株式会社イズケン 代表取締役

森 勲

奥の院護摩堂完成おめでとうござ
います。
おかげさまで無事故無災害にて工
期内完成を迎えることが出来ました。
当社は従来より周辺の寺院、宮上最
勝院様・田京蔵春院様・大仁洞泉院
様・柏久保天桂寺様など特に曹洞宗
のお寺に縁が有り、この度修禪寺様
とは建築で初めての仕事として頂き
ました。

今回の護摩堂新築工事に關しては

護摩堂外觀



宮大工の田子空道さんを訪ねた折に
三重の塔のような絵を描いており、
どこの絵かと尋ねたら、奥の院護摩
堂の完成予想図と言われたのが最初
の関わりでした。その後同級生の原
京さんが材木の寄付をし、具体的に
なってきたなと思っていました。が、
その後進展がなく気になっていまし
た。工事に関して請け負う機会が来
るとは思ってもいなかった所、縁有つ
て当社が施行することとなり誠に光
栄の至りでございます。

今回の工事に關しましては、木造
平屋建てですが、特徴としては先ず、
すべての材料が木材で現し仕上げと
なっている点です。現しとは本体を
作っている柱・榛（梁）等構造材も
すべて見える仕様の事です。昔はそ
れが当たり前でしたが、今では木造

内観／堂内東側よりホール中央を望む



主要構造部は集成材が多く無垢の材
料で作る事は少なくなってきたてき
ます。その主な理由としては、集成
材だと表面だけ仕上げ材を張ってい
るので、完成時に色柄等が簡単に統
一できるので見た目が良い点と、材
料が規格品なので定型通りの寸法で
すから加工・組み立ての手間が掛か
らない事です。

次の特徴としては、煙抜け部分の
構造が特殊な所です。

以上の点を踏まえ工事をする上で
考慮した事は、まずこの建物に相応
な無垢木材の材料の手配が出来るか
でした。原さんが寄付をして頂いた
材料は今では中々手に入らないよう
な立派な材料でしたが、伐採したと
きから時間がたっており、どれだけ
使えるかもわかりませんでした。が、
幸いにしての全面的に協力して頂け
る材木業者が有り、木材が手配でき

おてら

Q & A

お寺や仏事に關する？な質
問についてお寺のお坊さんか
お答えしていく「おてらQ &
A」のコーナーです。

Q

今度お寺で法事を行う予
定ですが、お供物は何を準備
したら良いでしょうか？

A

法事のお供物について

【生花】

色花です。

一束で充分ですが、一対でご用意
されてもかまいません。

しきび（香花）につきましては、
ご用意のある方はお供えいたし
ます。強制ではありません。

【お菓子】

生菓子（お饅頭など）でも乾き
菓子でも構いません。また、故人
さまが好きだったお菓子がもし
あればなお良いでしょう。

量については、二十〜三十セン
チ四方の台（三方）に乗せますの
で、これを参考になさって下さい。

【果物】

種類・個数に規定はありません
が、お菓子を乗せる台と同じ



護摩堂内観／

正面護摩壇用舞台

無垢の素材感が木の温もりと重厚さを演出する正面舞台。堂内全体が、柱や梁、床を化粧材としてそのまま見せる『現し（あらわし）』仕上げとなっており、開放感あふれる空間となっている。

ました。

次には上記の特徴が有る中、一番出来映え工期に影響する大工探しに苦労しました。仕事も無垢の木材を使うので反り、ねじれ等が必ず有り、壁天井を張って仕上げるならごまかしもききますが、ほとんど構造材が見えるので、その道の人が見ればすぐ出来映えがわかります。

しかしながら一番の問題は工期内に、確実に仕上げられる大工を探す事でした。設計の小川さんに紹介して頂いた監直建設さんに仕事を受けて頂ける事となりました。

工期は三月二十三日より十一月三十日と時間があるようですが、材木の手配から始まりますのでぎりぎりの日程でした。その中で八月初めより建て方が完了しましたが、屋根を葺くまでの間に雨が降り木材を濡らしてしまふと、木材の色むら、灰汁、カビの発生の原因となります。この建物はほとんどの構造材が見える仕上がりとなっていますので、その間の雨天を心配していました。幸いにしてそ

の間ほとんど雨が降らずにすみしました。工事担当者は、この時期に殆ど雨に当たらず工事が出来たのは、弘法大師のご加護があったからではないか：ありがたやありがたや：と言っていました。

また担当者から建物を引き渡す前日に、「今晚護摩堂のライトアップをしますので見に来て下さい」と言われました。引き渡す前に建物のライトアップの意味がわからず行きましたが、工事関係者が多く見学をしており、その時に担当者が世話になった工事関係者に見に来て下さい、と声をかけ実施した事がわかりました。担当者としても完成にあたり、皆さんの協力のもと誇りを持ってこんなに立派に出来ました、ありがとうございしました、との気持ちがありました。私自身も当社がこの工事を請け後世に残る建物を作らせて頂いたと改めて感謝の気持ちでいっぱいになりました。またライトアップされた護摩堂は、見ごろを迎えた紅葉に浮き出され、とても幻想的で魅力あふれる光景でした。

最後にこの工事に協力を頂いたすべての皆様に感謝申し上げ、奥之院護摩堂が末永く地域の皆さまに親しんで利用して頂ければ幸いです。

合 掌

大きな台（二十〜三十センチ四方）に乗せますので参考になさって下さい。また、かご盛りになっているものでもそのまま台に乗せますので大丈夫です。

【お団子】

ご用意される・されないは、地区や家々の習慣によつてさまざまです。ご用意のある方はお供えいたします。強制ではありません。なお、用意される場合は一対となります。

【遺影】

ご用意される・されないは、家々の習慣によつてさまざまです。ご用意のある方はお供えいたします。強制ではありません。

【四十九日餅】

四十九日法要のみにお供えする四十九個の小さなお餅です。強制ではありませんが、お供えされる施主さまが多いです。

以上が、お寺で法事をされる場合のおおまかな目安ですが、仕事や忙しいなどの理由でなかなか準備できない場合には、お施主さまに代わって葬儀会社やギフト会社様がこれを代行する業務も行っております。

また、お供物はお寺の準備の都合上、基本的に『**法要前日の午後三時**』までにお寺にお届けになってください。



はくいんぜんじ ●白隠禅師筆『達磨図』

鑑賞 修禅寺

宝 物 紹 介

今回の修禅寺寺宝紹介は白隠禅師筆『達磨図』をご紹介します。

『白隠慧鶴』

貞享二年（1685）～明和五年（1768）。

江戸中期、「駿河には過ぎたるものが二つあり、富士のお山に原の白隠」と謳われたほどの臨済宗の名僧。

貞享二年（1685）現在の静岡県沼津市原の地に生まれ、十五歳のとき松

蔭寺で出家、慧鶴と名付けられた。十九歳より旅に出て諸国を修行し、ついに五百年間に一人と言われるほどの高僧となった。

白隠は、「公案」を中心とした禅の修行に新風を吹きこみ、中国の影響の強かった臨済宗を日本独特の姿に変革した。体感的に理解しやすい教えを唱え、多くの修行僧を育成して臨済宗復興を成し遂げた。現在の臨済宗の禅風は白隠に始まったとされ、

臨済禅中興の祖と仰がれている。

非常に博学であった白隠であるが、若い頃から書画や詩文にも優れた才能を発揮し、宗教画や動物や人物の戯画なども数多く残していて、独特の作風を見せている。

明和五年（1768）、長年住んだ原の松蔭寺で八十四歳の生涯を終えた。

遷化後、後桜町天皇より神機独妙禅師の諡号を、また明治天皇からは正宗国師の諡号を賜っている。

本図は白隠禅師が好んでよく描いた「達磨図」であります。

図の上部に記されている賛はとても難解な語で、白隠禅師研究の第一人者であります花園大学国際禅学研究所教授の芳澤勝弘先生によりますと次のように評されています。

深入巖窟
外息諸縁
以唾矧矢
紙障關門

深く巖窟に入つて
外、諸縁を息むるも
唾を以つて矢を矧ぎ
紙障もて關門す

○深入巖窟…岩穴の奥深くに入る。

○外息諸縁…達磨の語「外息諸縁、内心無喘、心如牆壁、可入道（外、諸縁を息めれば、内、心の喘ぐ無し。心、牆壁の如くにして、以て道に入る可し）」。

○以唾矧矢…和諺に「唾で矢を矧ぐ」。弓矢を作る際、羽根にニカワの代わりに唾をつけて竹に張る、いい加減なやり方のさま、投げやりなさま、をいう。

○紙障關門…「紙障」は紙で出来た障子、「關門」は關門のこと。

また、署名の「白隠叟」の下にある落款は、若いとき（白隠五十歳代）の作品に見られるものである。



行事・イベント
あれこれ

◆法戦式
ほっせんしき



戸田祥司師 法戦式

九月二十五日、禅道場の修行のひとつ「法戦式」が行われました。法戦式とは、一人前の禅僧となる為に通過すべき儀式の一つで、住職に代わって仏法を説く事が許された者（首座）が大衆の前で禅問答を展開する式であります。

今回、御縁あって首座の任にあたられたのは戸田祥司さん。宮城県出身、現在大本山總持寺にて修行中の青年僧侶であります。緊張のなか無事に法戦を終え、再び總持寺での修行の日々に戻られました。今後のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

◆故田中徳潤御前様

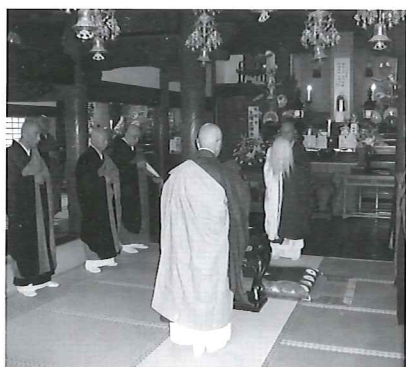
一周忌法要

◆故丹羽圓宗御前様

七回忌法要

昨年十一月九日に世寿九十八歳で御遷化なされました修禅寺四十二世故田中徳潤御前様の一周忌法要が末山・関係寺院、護持会役員等来山され十月一日に営われました。御導師（焼香師）は葦山多田の慈光院様に御勤め頂き、厳肅に法要が執り行われました。

また、十月三十日には修禅寺四十一世故丹羽圓宗御前様の七回忌法要が関係各位来山のもと営われました。御導師は遺弟子であります修禅寺現住職吉野御前様がお勤めになりました。



田中御前様一周忌法要
御導師慈光院さまに御礼される吉野御前様

◆桂谷八十八ヶ所巡拝

（十一月七～九日）



巡拝3日目まだ雨がのこる

今年は初日七日が好天に恵まりましたが、のこり二日間は雨天となっていました。とくに二日目は本降りでありましたが、参加者みな雨具を身に着けて元気に巡拝されました。

◆庭園特別公開

（十一月二十日～十一月三十日）

境内裏手にある庭園「東海第一園」が護持会主催で特別公開されました。（今年で七回目）今年は紅葉の時期が遅かったにもかかわらず大勢の観光客が訪れ、入園者は二万人を数えました。期間中は温泉場全体が大混雑でありました。



庭園公開

◆成道会

十二月十日、お釈迦さまが悟りを開かれた事をお祝いする「成道会」法要がおこなわれ、護学会役員・梅花講員・坐禅会員のみなさまが参列されました。本来、お悟りを開かれた記念日は十二月八日ですが、吉野御前様が越前の御誕生寺に出向されていた為、帰山後の十日法要となりました。

お釈迦さまは苦行で疲れきったところを村娘にお粥を施され回復しその後悟りを開いた…との故事にちなんで、法要のあとには参加者みなで黒米のお粥を食しました。



成道会を終えお粥をいただく

二月・八月の お寺の行事・ イベントです



●二月三日(水)十二時
追難会大祈禱

(節分祭・豆まき)

●二月十三日(土)～三月六日(日)

女将のもちより雛展

●二月十五日(月)十一時
釈尊涅槃会

(お釈迦様の御命日)

●三月十七日(木)十五時

頼家公春彼岸墓前供養

●三月二十日(日)十時

お彼岸法要

●四月十日(日)十時
釈尊降誕会 (花祭り法要)

《花まつり記念講演》

伊豆資料館館長 田中之博 先生

『修禅寺と近代日本画の巨匠たち』

●四月二十・二十一日(水・木)

春季弘法忌大祭

(春のお弘法さん)

●四月二十三・二十四日(土・日)

手作り市

●五月十八日(水)十八時半

観音講

●七月三日(日)十一時

弁天祭

●七月十八日(月)午前中

頼家まつり・

十三土供養祭

●七月三十一日(日)

新盆棚経 (初めてお盆を迎える
精霊さまへのお経)

●八月一日(月)十八時

山門大施食会 (お盆の総供養)

修禅寺寄席・盆踊り大会

修禅寺

山内衆紹介

◆修禅寺におります僧侶・
スタッフの紹介コーナー。



中村博隆 さん
なかむら はくりゅう

中村師は平成七年に修禅寺の勤務僧として上山され、今年在籍二十年目となりました。お葬儀や法事、修禅寺の行事等で皆様にお目にかかる”おなじみの坊さん”かと思えます。

師寮寺(実家)は旧大仁町吉田の常雲寺副住職であります。みなさま宜しくお願いいたします。

御寄附

- 奥之院護摩堂 祭壇幕一式 暖簾
— 中神戸 湯川静子様 —
- 八十八箇所巡拝草鞋マスケット
— 南町 鈴木容子様 —
- 八十八箇所巡拝草鞋マスケット
— 牧之郷 山口惣一郎様 —
- 竹ぼうき十本
— 中里 三須裕之様 —
- 竹ぼうき十本
— 柏久保 杉村英明様 —
- 白米 十五キロ
— 中里 唐澤之泰様 —
- 白米 三〇キロ
— 北又 山口信彦様 —
- 〓御懇志ありがとうございました〓



○歳末たすけあい。 東日本大震災救援 托鉢御報告

○十二月二十四日に毎年恒例の歳末たすけあい托鉢（たくはつ）が行われました。今年は僧侶に加えて護持会の役員さまも一緒に修行され、昨年同様、皆さまから温かい浄財をご喜捨いただきました。

皆さまからご喜捨戴きました浄財は、伊豆市社会福祉協議会に寄付させて頂きました。

あたたかいお志し誠にありがとうございました。

合掌

《東日本大震災義援金報告》

◆平成二十三年三月〓
平成二十七年十二月八日現在
合計 209万4204円

○義援金は日本赤十字社はじめ各復旧復興支援団体に寄付させて頂きました。義援金箱はお守り売店前にあります。

今後とも息の長いご支援の程よろしく願います。

火曜坐禅会

八月〓十二月八日までの参加者数のべ 二七二名

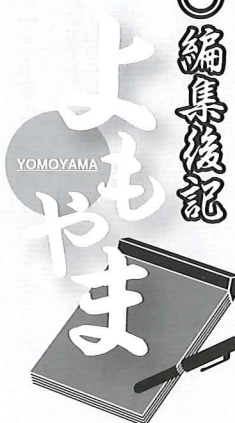
年回表

平成
二十八年
度

一周忌	平成二十七年
三回忌	平成二十六年
七回忌	平成二十二年
十三回忌	平成十六年
十七回忌	平成十二年
二十三回忌	平成六年
二十五回忌	平成四年
二十七回忌	平成二年
三十三回忌	昭和五十九年
五十回忌	昭和四十二年

◎法事のお申し込みは、
できましたら、一〓
二ヵ月前にはお願いいた
します

○編集後記



毎年のことだが、昨年平成二十七年もなにかと忙しい年であった。
そしてあつという間に新年である。
今年は申年。

見ず聞かず言わざる三つのさるよりも思わざるこそまさるなりけり

（良源）

「見ざる、言わざる、聞かざる」は日光東照宮にある彫刻でも有名だが、この三猿の話はもともと天台宗中興の祖と言われている良源の処世術から生まれたものであるという。他人の欠点や落ち度に対して、見ざる聞かざる言わざるが大切であると。そして、それ以上に、人に対し、いかり・うらみ・ねたみ・だまし・へつらい・おごり…といった「悪い心」を持たない「思わざる」ことこそが最も大切なことであると良源は言ったのである。

「思わざること」…じつはそれがいちばん難しいことなのかもしれない。今年「悪い心」が寄ってきたら、自分の心でそっと隠したいものである。

◆指月編集担当

はくりゅう 記

退歩を学すべし

修禅寺住職 吉野 真常

福

田三郎



修禅真常



昨年の新聞にこんな記事が掲載された。

『全国の警察が今年上半年に摘発した刑法犯のうち65歳以上の高齢者が2万3656人に上り年齢層別統計を取り始めた1989年以降、初めて半期ベースで14・19歳（1万9670人）を上回ったことが警察庁の集計（暫定値）で分かった。』

少子高齢化が犯罪現場にも反映されている事も分かります。お元気な老人が沢山いる事もよろこばしい事と思います。しかしこれではね。

小生今年で六十一歳になります。まだまだ青二才。こんな小生ですが言わせていただきたい。

「青臭い老人が多すぎる！」と。

修善寺温泉場の一方通行の道路を車で平気な顔で逆行する老人。赤信号で停まっている小生の車の後につき、信号が変わったとたん、小生の車を追い抜いて走り去った方、どう見ても小生より年上に見えましたぞ。申し訳ない事です、こういう老人方を見ていると、情け無くなってしまうのです。「もう、日本おしまいかもしれない。」と。「今時の年寄り……」との声が聞こえてきます。一昔前は、「今時の若い者は……。」と言ったもののに。

今までどう生きて来たのでしょうか？自己を顧みる事などなかったのでしょうか。鼻の下をのばして、外側を豊かにするだけの満足で幸福になると思っているのでしょうか。子供さんもお孫さんもうるでしょうに。

テレビのCMでよく観ます。年を取っても若い人のようにピチピチなお肌。運動も旅行も若い人のように。これも一つの幸せの形ですが、本当の幸せは、手に入りませんよ。絶対に。

仏教では、この本当の幸せの事を『安心』と言います。そしてこの安心は、自己のあり方と深く関わっています。自己の深さ・広さの分量しか、安心はありません。ですから自己を顧み、深めて行くしかないのです。古の生活は、生きる上で沢山の試練等があり、自然に年を取ると、自己が深まって行ったようです。天地に、春・夏・秋・冬があるように。坐禅をしませんか？本当の自己・自然をさがす旅に出ませんか。本当の幸・安心を手に入れる為に。

須らく言を尋ね語を逐うの解行を休すべし。須らく回光返照の退歩を学すべし。

道元禅師著『普勸坐禅儀』より